

### 3-8 藤川 綾香

## 「豊かさとはなんだろう ～インドネシアを通してみえるもの～」

学校名・名前 : 兵庫県立加古川南高等学校 ・ 藤川 綾香

実践教科 : 社会福祉基礎

指導時数 : 10時間

対象学年 : 高校2年生                      対象人数 : 19人

### 1. カリキュラム

#### (1) 実践の目的

兵庫県内の外国人登録者数は、10万人以上、加古川では2,314人となり、本校にも在日韓国人の生徒や、母親が外国人である生徒も在籍している。本校は総合学科で「異文化理解」という授業があったり、国際交流が行われており、生徒たちは国際交流や異文化理解に漠然とではあるが興味をもっている。ちょうど2年次の11月にマレーシア修学旅行を控えていたので、私の担当する福祉の授業で、日本とインドネシアとの関わりを通して児童福祉や災害支援をテーマに授業したいと考えた。「外国＝先進諸国」というイメージを持つ生徒も少なくないが、決してマイナスイメージを持たせることなく、開発途上国の現状と高校生にできることを考えさせたい。

具体的には、社会福祉基礎の授業で豊かさをテーマに開発途上国の状況についてとりあげたい。福祉は、すべての人々が幸せに暮らすことを目標に考える教科である。今回の研修で私自身が経験したことを通し、豊かさ＝幸せではないこと、貧しさ＝不幸ではないことを生徒たちに伝え、高校生として国際社会の抱える問題に何らかの形で参加できることを考えさせたい。一つには、インドネシアの地震後の状況を伝え、身体障害者となられた方への支援のありかたについて考えさせ、日本の障害者への援助と比較させて、自分たちの置かれている状況を見直すきっかけにさせたい。もう一つには、ストリートチルドレンの支援施設について学習し、世界には搾取され労働を強いられる子どもたちがいることや「子どもの権利条約」について触れたい。

そして、今までの自分の生活を振り返り、生徒たちが「当たり前」と感じ行っていることが、実は当たり前ではないことや、貧困の中で命さえも危ぶまれる生活を送っている人々もいることを知らせたい。そして、高校生としてできることを考えさせたい。

#### (2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 フォトランゲージ 「地球家族」	・班ごとに異なる2カ国の写真「地球家族」の写真を用いて、世界中の暮らしを想像し、豊かさとは何かについて考える導入にする。	フォトランゲージ ワークシート

<b>2時間目</b> インドネシアを知る 「インドネシアのはてな？とびっくり！」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PPT「インドネシアのはてな？とびっくり！」を用いクイズ形式で地理、人口、気候、服装、食生活、言語、教育制度、日常生活について紹介する。</li> </ul>	PPT・ワークシート・国旗・ジルバフ・サンバルソース
<b>3時間目</b> 他の文化を知るといことは？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インドネシアのゲシアン村の交流会・ホームビジットで異文化交流をした内容を紹介する。</li> <li>・自分たちが日本について紹介するなら何を紹介するか、また異文化を理解するのに必要なことを考えさせ、ユネスコの憲章序文を読む。</li> </ul>	PPT
<b>4時間目</b> 世界がもし100人の村だったら	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界がもし100人の村だったら」をシュミレーションする。</li> <li>・世界中に多様な文化や言語を持つ人が住んでいること、大きな貧富の差があること等、本の中に書かれていることを体験的に学ばせ、日本はどこに位置するかを考えさせる。</li> </ul>	PPT・ひも・ジュース・紙コップ等
<b>5・6時間目</b> 貿易ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貿易ゲームを通し貧富の差の原因や解決策を考えさせる。(南北格差 / 自由貿易や市場価値の変化 / 移住労働者 / 援助について)</li> </ul>	PPT・はさみ・定規・コンパス等
<b>7・8時間目</b> 支援とはなんだろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インドネシアでの地震によって、下半身麻痺になられたお二人を通して、具体的な援助の事例について学ぶ。</li> <li>・インタビューや写真から想像できるニーズを考えさせる。</li> <li>・必要な支援はどんなものか考えさせ、JICAのビデオを見て実際にあった援助を知らせる。</li> <li>・看護師さんに伺ったお話のDVDを見せる。</li> </ul>	PPT・DVD・ワークシート
<b>9・10 時間目</b> インドネシアの子どもたちと子どもの権利条約	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストリートチルドレンとは何かについて学習させる。</li> <li>・ストリートチルドレンの施設について知らせる。</li> <li>・子どもの権利条約に関するワークショップを行う。</li> </ul>	PPT・ワークシート

なお、2時間目PPT「インドネシアのはてな？とびっくり！」は、少し内容を変えて、修学旅行前のLHRにおいて担任するクラスで、事前学習として40人を対象に授業を行った。

## 2. 授業の詳細

### 1時間目 「フォトランゲージ」地球家族」

「豊かさとは何か」の導入として「地球家族」を使用し授業を行った。世界の普通の暮らしに目を向けさせ、異なる2カ国(先進諸国と開発途上国)の写真をみて、気づくことを記述し、班ごとにまと

めた。「豊か」と思うのはどちらか、またその理由も考え、各班ごとに発表させた。さらに日本の写真を見て、感じたことを考えた後、豊かさとは何か、自分の言葉で記入させた。ここでは、できた答

えについて言及せずに終わり、これから考えていくことを告げて導入とした。

【生徒が考えた「豊かさ」】

- ・ みんながお互いに支えあって生きていくことができたら、それでいいと思う。不自由があっても生活ができたら十分豊かだと思ふ。日本の暮らしは豊かというより贅沢かもしれない。それで慣れていると不自由な生活は無理だろう。
- ・ 国によって豊かさは違うけれど、その国に住んでいる人が幸せとっていたら、豊かだと思ふ。たとえ貯金が無くても楽しく暮らせているなら良いと思ひます。
- ・ 欲を言えば、清潔とか食べ物に困らないとかいろいろ出てくるけど、自分が豊かだと思ったら他の人から見て、貧乏でも豊かだと思ふ。
- ・ 自分が幸せかどうかで決まる。物も大切だけど、生活が充実するのも大切だと思ふ。笑って写真に写っている、この人たちみたいな生活が本当に豊かなのかも。
- ・ 豊かって何やるなあって改めて思ひた。きっと「豊か」=「幸せ」って別につながってないだろうな。物があるから豊かとか、何も周りにないから豊かじゃないってことは絶対無いと思ふ。「豊か」という言葉をこれってひとつで説明できないんだと思ひた。



## 2時限目 「インドネシアを知る「インドネシアのはてな？とびっくり！」

まず、インドネシアと聞いて連想することをたくさん発表させた。暑い、バナナ、森、島、熱帯雨林、宗教、田舎、黄色人種、地震、果物、貧困、ブラックタイガーの輸入、イスラム教、食べ物が甘そうなどのような言葉がでてきたが、あまり詳しくはわからない、というのが正直なところだった。その後、PPTやワークシートを使用して、クイズ形式でインドネシアの学校生活、宗教、習慣、食生活について紹介した。パワーポイントだけでなく、地図や国旗、実物のジルバブを用いてイスラム教の女性の服装、サンバルソースを用いて食生活を紹介した。

修学旅行で訪問するマレーシアと似ている部分が多く、宗教や服装、食べ物のことにとっても興味をもって聞いていた。また、マレー語と似ているインドネシア語についても紹介した。生徒と年齢の近い子どもたちの写真を見せ、教育制度や学校生活について紹介した。最後に、インドネシアの子どもたちにとつた同じアンケートをして、どう答えるか想像してもらった。

この授業は、生徒たちはとても反応がよく、積極的にクイズに答えたり、「へー」と感心し、子どもの写真を見ては「かわいいなあ」と言っていた。生徒たちは、修学旅行の事前学習としてマレーシアについては学んでいるため、隣の国のインドネシアに親しみやすさは感じて、「実は意外に何も知らないんだなあ」と話していた。

PPT「インドネシアのはてな？とびっくり！」より抜粋

 <p>WE LOVE INDONESIA</p> <p>社会福祉基礎</p>	<p>インドネシアのはてな？とびっくり！</p> <p>学校編</p> <p>学校には給食がある</p> <p>NO</p>	<p>屋台がある！ 授業は昼まで</p> 
--	--	--

### インドネシアのはてな？とびっくり！

#### 学校編

学校の制服は、曜日によって  
全国で決まっている

YES

### 金曜日はお祈りできる格好に

中学校



保育園



### ちなみに女性の服装は？



### 私も持っています



### 日本のトイレとどこがちがう？



## 3時限目 「他の文化を知るということ」

インドネシアのゲシアン村で交流したことを紹介して異文化理解とは何か考えさせた。小学校だけでなく、中学校でもソーラン節を踊ったこと、見てくれる人はみんな好意的だったことなどを伝えた。ソーラン節以外に、習字・折り紙・すもう・お手玉・紙風船等をインドネシアの子どもたちに紹介したことを伝えた。ホームビジットでインドネシアの子どもの遊びについて教えてもらっている動画や、茶道を紹介している動画を見せた。インドネシアの子どもの遊びをみて、「ケンケンパ - に似てるなあ」とか「私らもこんな遊びやったで」と、言っていた。また私がたてたお茶を飲んでいるインドネシアの子どもたちを見ながら、「私も苦くて飲まれへんのに、一生懸命飲んでるなあ。」とか、「先生良かったやん。」と口々に言っていた。

次に、インドネシアのあちこちで見つけた「日本」を写真で紹介した。ドラえもんの漫画やCD、日本企業の看板などがあることを話すと、驚いていた。もし、自分たちが日本について紹介するなら、何を紹介するか考えさせたが、難しそうにしていた。そして異文化を理解するのに必要なことは何か考えさせた。文化に優劣がつけられる？との問いには、みんなそろってNOと言ったが、自分た

ちと違う生活習慣をどれだけ受け入れるだろうか？と聞くと、わからない、と答えていた。最後に、教科書にあるユネスコ憲章の序文を読み、相互の風習と生活を知ろうと努力することがなぜ大切なのかまとめた。最後の部分は、生徒たちから引き出したかったが、言葉の解説をしながら説明をしていった。

## 4時限目 「世界がもし100人の村だったら」

世界中に多様な文化や言語を持つ人が住み、そこには大きな貧富の差があることが本の中に書かれており、それを体験的に学ばせ、日本はどこに位置するかを考えさせる。世界の人口や男女比をみて、開発途上国と先進国の男女比の違いが何に起因しているか考えさせる。人口のなかに占める高齢者、若年者の構成に気づかせる。大陸ごとの人口密度の違いや人口の8割は開発途上国に住んでいることを認識させる。世界には多様な言語が存在することを実感させ、少数言語が世界から消えていく現状を知らせる。どのような国で識字率が低いのか、それはなぜかを考えさせ、実際貧しい開発途上国に暮らす人々は、非識字者である場合が多いことにも触れる。世界全体の富の配分が、どのくらい不公平であるかを体

験させる。特に富が先進国に集中し、開発途上国では、多くの人口で少ない富をさらに配分しなければならないことに気づかせる。

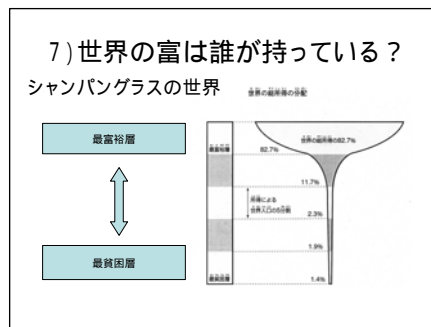
【生徒の感想】

- ・ どれだけ自分が“世界”の国についてあいまいに見てきたかを改めて感じた。言葉だけじゃ伝わらない部分ってたくさんあると思った。体験することで身近に感じることができた。
- ・ このゲームの中では、どこが豊かでどこが貧しいか、私たちは分かったけど、どの国の人も自分を貧しいと思っていると

は限らない。

- ・ 貧富の差を感じた。世界中の富を全員で分けるとちょうどになるのに。
- ・ 平和だ平等だといいながら全く違うと思う。今日のご飯にも困る国の人があった。
- ・ いろんな国について色んなことを知ることができた。私たちが住んでいる日本は、他の国に比べて、子どもは学校へ行けているし、文字も読めるし、食べ物にも困っていないので、すごく幸せなんだと感じました。世界には色んな問題があるんだと分かりました。

### PPT「世界がもし100人の村だったら」より抜粋



### 5・6時限目 「貿易ゲーム」

前時に100人村のワークショップで体験した貧富の差はどこからくるのかを貿易ゲームを通して体験的に学ばせる。渡された袋の中に入っていたものから南北格差を考えさせる。道具がそろっていたところは、始終優位だったことが何を意味するか考えさせる。次に、市場価格の変化について、急に製品の値段が変わることで体験したことを振り返らせる。市場のニーズが変化することは、現実社会ではバナナやコーヒー、砂糖などを表しており、開発途上国が外貨を獲得するために作っていたものが、価格が下落し大打撃をうけることを意味することを確認する。他のグループで作業した人が、手間賃をもらって他のグループで作業することが、移住労働者にあたること、先進国への「出稼ぎ」を意味することを知らせ、フィリピンやスリランカなどは国が積極的に送り出している

ことも触れる。他から助けられたことについて、どんな助けがあったかを振り返らせ、どんな助けが必要か、国際協力のありかたについて触れておく。次時では具体的な援助について学習することを知らせる。

【生徒の感想】

- ・ 貧しいチームだったから大変だった。途中で嫌になったが効率よく生産する方法を考えた。他のチームがうらやましくなった。仕事ができるとやる気が出てきた。
- ・ 裕福なチームは、もっともっと稼げる仕組みになっていると思う。先進国は他の国に目を向けるべき。
- ・ 技術があるのとないのとで、チームの格差が大きいと思った。他のチームと貸したり借りたりして作業することができたから、援助してもらってありがたさを感じた。



そういうのは大切だなって思った。

- ・ 私たちのチームは、人は多いけど技術がないので何もできなかった。だから先進国チームに技術を少しずつもらった時、とても嬉しかった。これが必要とされる援助なんだなあと思った。

### 7・8時限目 「『支援』とはなんだろう」

100人村や貿易ゲームを通して、世界全体に目を向けることができるようになった後、インドネシアでの地震について学習を進める。シアンさん、サルジウムさんの事例を写真やDVDを通し、おかれている状況を想像し、インタビューを読む。シアンさんを支えたものは何だったかを考える。シアンさん、サルジウムさんを取り巻く困難な状況を考え、必要な援助はどんなことか考える。自分もインドネシアに行ってお二人を助ける立場になったら、何を援助するかを考える。日本からは、実際にどんな援助があったかを知る。

シアンさんについては、暮らしやすい家や、必要な福祉用具について目を向けさせる。強い精

神力で、リハビリを続けたシアンさんにとって、宗教や家族が精神的な支えであったことを知らせる。また、日本の障害者や高齢者の状況と比べてみる。

次に、サルジウムさんをシアンさんと比較して、精神的な支えについて考えさせる。収入を得ることができないサルジウムさんへの援助はどうすればよいか考えさせる。前回の貿易ゲームで考えた適切な援助とは、お金を渡すことだけではないことを振り返らせる。また、リハビリや麻痺に対する知識の大切さを知らせる。

JICAのビデオを見せて、実際にはどんな援助があったかを知らせる。援助について振り返り、日本が行っている援助について学ぶ。貧富の差を越えて、世界の人々がよりよく暮らすために、できることを見直す。

看護師さんと栄養士さんに伺ったお話を最後に触れる。評論するだけでなく、自分に何が出来るかを考えさせる。

「支援について考えよう」で生徒の話合っている様子



「支援について考えよう」でのワークシート

**豊かさについて考えよう 4**  
比較について

学習を進める前に  
今までの学習を振り返ろう

90分、授業速上回りの準備 (10分)

★ スマトラ沖地震によって下半身麻痺になられたお二人 (シアンさん、サルジウムさん) 写真やDVDから想像できること (できるだけたくさん記入しよう)

インタビューを聞きます

<p>★ 豊かさを測る方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収入が豊かすぎると税金が高くなる</li> <li>・車が動いてくれない → 車は壊れて修理が必要</li> <li>・足は麻痺している → シアンさん</li> <li>・ユニフォームが汚れている → 洗濯機がない</li> <li>・食料が足りなくなっている → 通学が大変で家に帰ると疲れている</li> <li>・地震の前は豊かだった → 地震で壊れてしまった</li> </ul>	<p>★ シアンさん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビに壊れている (壊れたテレビ)</li> <li>・コップが壊れている (壊れたコップ)</li> <li>・学校の机が壊れている (壊れた机)</li> <li>・靴が壊れている (壊れた靴)</li> <li>・食料が足りなくなっている (食料不足)</li> <li>・家が壊れている (壊れた家)</li> <li>・家族がいない (家族の死)</li> </ul>
---	---

シアンさん、サルジウムさんを取り巻く困難な状況を考えてよう

シアンさん	サルジウムさん
<ul style="list-style-type: none"> <li>・足が麻痺している (足が麻痺している)</li> <li>・歩けない (歩けない)</li> <li>・トイレに行けない (トイレに行けない)</li> <li>・寒い (寒い)</li> <li>・食料が足りない (食料が足りない)</li> <li>・家が壊れている (家が壊れている)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家が壊れている (家が壊れている)</li> <li>・寒い (寒い)</li> <li>・食料が足りない (食料が足りない)</li> <li>・家が壊れている (家が壊れている)</li> <li>・寒い (寒い)</li> <li>・食料が足りない (食料が足りない)</li> </ul>

シアンさんを支えたものは何だったのでしょうか (写真、ビデオ、インタビューのやり取り)

自分ももしインドネシアに行ったら、何を支援するかを考えてよう

シアンさん	サルジウムさん
<ul style="list-style-type: none"> <li>・足が麻痺している (足が麻痺している)</li> <li>・歩けない (歩けない)</li> <li>・トイレに行けない (トイレに行けない)</li> <li>・寒い (寒い)</li> <li>・食料が足りない (食料が足りない)</li> <li>・家が壊れている (家が壊れている)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家が壊れている (家が壊れている)</li> <li>・寒い (寒い)</li> <li>・食料が足りない (食料が足りない)</li> <li>・家が壊れている (家が壊れている)</li> <li>・寒い (寒い)</li> <li>・食料が足りない (食料が足りない)</li> </ul>

DVDを参考に書いてみよう

言葉の補を補えて、世界の人々がよりよく暮らすために、できることは何だろうか DVDを参考に書いてみよう

★ 地震が怖くてテントで住んでいたり、体が不自由でもみんな強く生きている、と思った。子どもたちも目がキラキラして、わたし達日本人は、生活は豊かだけど、こんな風に強く生きているかなあと考えさせられた。豊かさってというのはモノだけじゃないよな、と思う。もっと他の国に目をむけていきたいと思った。(中略)そして今ある豊かさに感謝して生活していきたい。

【生徒の感想】

- ・ テレビで間接的にしか知らなかったのが、びっくりしました。まだいまだにたくさんの方が不自由をしながら生活しているなんて考えたこともありませんでした。むしろ、もう終わったことだとばかり思っていました。勉強した中で出てきた二人の人は今どうしているのかとても気になります。あの一瞬の出来事で家族を失ったり、家がなくなったり、家に帰ることがトラウマになったり、自分の自由が利かなくなったり。私たちが何も知らずに生活している間にも、インドネシアの被災された人は良くなることを信じて毎日生活しているんだと思うと悲しい気持ちになりました。
- ・ 地震のことは怖かったけど、勉強してもっとわかりました。地震によって家族をなくす苦しみと、自分の心身の自由をなくす苦しみ、常に怖さと戦う苦しみ…とてもつらく苦しいと思います。でも今の自分にはどうすることもできない、だから日本

のように豊かで贅沢な暮らしをしている人が寄付したり援助する方法があるんだと思いました。そんな辛さを支えるのは、家族であり友人であり、援助なんだと改めて思いました。私たちは少しのことで、「嫌や〜」と言ってしまふけど、世界に目を向けると本当に贅沢な暮らしだと思います。まだインドネシアの復旧にむけての作業は続くと思うけど、前よりも少しでも良い暮らしができるようになってほしいです。とても興味のある勉強ができて良かったです。

- ・ 地震が怖くてテントで住んでいたり、体が不自由でもみんな強く生きている、と思った。子どもたちも目がキラキラして、わたし達日本人は、生活は豊かだけど、こんな風に強く生きているかなあと考えさせられた。豊かさってというのはモノだけじゃないよな、と思う。もっと他の国に目をむけていきたいと思った。(中略)そして今ある豊かさに感謝して生活していきたい。

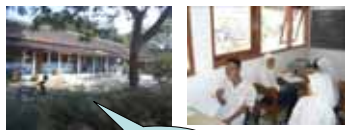
- 大地震はインドネシアの人々に体の傷だけでなく、心の傷も残していったことが分かりました。それを援助しにインドネシアへ行っている人はすごいと思います。生活の支援や床ずれの治療、働いて収入を得るようなサポート・・・、モノをあげておしまい、ではなくて自立していくまでの支援というのはやっぱり大変だと思います。そして、麻痺に対する知識があまりないと聞いたのは驚きました。薬では麻痺は治らないと知らなかったということに対しては、病気に対しての知識をつける支援をしていけばいいんじゃないかと思いました。私は、これまで知らなかったことが分かったし、どういう状況にあるのかもわかったので、自分は何が出来るか考えていきたいと思いました。
- 一番最初に思ったのは、地震って本当に怖いな、ということ。二人の女性について学んで、私たちがどれほど不自由なく安全に暮らしているかを改めて実感しました。二人とも足が不自由で車いす生活をしているけど、買い物や家事などとても大変そうです。シアンさんは家の入り口に段差があるし、家族と離れて暮らすことは不安だと思います。それから、サルジウムさんは入院できないことも辛いと思います。助けが必要なときに助けてもらえないのは悲しいと思います。こういう人のためにホームヘルパーがいたり補助具が給付されたり日本のようになればいいのと思います。
- 体が不自由になっても、協力隊の人がひらいた運動会があったりして、人生をあきらめたらいけないな、と思いました。世界には貧富の差があって、困難はあるけれど、ビデオを見て、がんばろう、という気になりました。
- 私はこの授業で、ものすごく貧富の差を感じました。私の将来の夢の中にも、看護師になって、貧しい国へ行って、一緒に生活して、助けたいと思う部分もあったので、こういうことが知れて良かったです。私だったら、やっぱり医療的な援助はもちろん、一緒にお話をしたり、歌を歌ったり、その人の好きなことをしたり心の中も重視して少しでも笑顔になるようにしてあげたい。病院に行けたら安心できると思いました。あの看護師さんは、インドネシアの人を助けに出たのは、本当にすごいと思いました。

PPT「支援について考えよう」から抜粋

<p style="text-align: center;">社会福祉基礎</p> <p style="text-align: center;">援助について考えよう ～インドネシアの被災地を通して～</p> 		<p style="text-align: center;">お一人目・・・シアンさん</p> 
--	---	---



シアンさんは



養護学校で働いています。

地震の時のお話を伺いました。紹介します。

考えてみよう



この人には、どんなことに困っているだろうか？

お二人目…サルジウムさん



サルジウムさんは



家の奥りに

裏には大きな家々が

考えてみよう



この人には、どんなことに困っている？

青年海外協力隊の方のお話から



9・10時限目 「インドネシアの子どもたち」

「子どもの権利条約」「子どもの幸せとは」

PPT を使って、インドネシアのストリートチルドレンの支援施設について紹介する。なぜ、このような施設があるのか、ストリートチルドレンとはどのような子どもたちかを説明する。また、NGOとJICAの取り組みについて紹介する。

その後、子どもの権利条約について、グループワークを通して考えさせる。子どもたちがほしい物、必要であるものをもとに、子どもの権利について定義する。子どもの権利条約を読む。

【生徒の感想】

- ・ 親が子どもを路上で働かせなければならぬ状況にある国というのは、本当に無残だと思う。子どもが一人一人生きる上で大切なこと(単に生存するだけでなく、教育や愛情、意見を聞いてもらうことなど)が、結構あることがわかった。
- ・ 今日考えた子どもの権利一つ一つが、世界中の子ども一人一人にあれば、死んでしまう子どもはいないだろうと思いました。
- ・ 特に貧しい国の子どもは弱い立場で、大人の都合で権利を勝手に決められがちやけど、それはおかしいこと。

PPT「インドネシアの子どもたちと子どもの権利条約」より抜粋

これは何をしていますでしょうか？



子どもの権利について考えてみよう

世界中には、貧困などの原因により、子どもの権利が守られていない状況もある



ストリートチルドレン支援施設



インドネシアのジャカルタ

## 番外編

1. フードデザイン「マレー(風)料理を作ろう！  
～ナシゴレン・サテアヤム～」
2. 時間数:3時間
3. 対象学年:2年
4. 対象人数:フードデザイン選択者37名

マレーシアへ修学旅行に行く前に、ナシゴレンやサテアヤム作りを行った。ココナッツミルクや、スイートチリソース、ピーナツバターなど普段料理には使わない調味料をおそるおそるなめている生徒もいた。作った料理は、他教科の先生に試食していただいた。家庭科では、3F (Food、Fashion、Festival)のうち Food、Fashion の二つをテーマに授業できる教科なので国際理解教育の導入として最適だと感じるが、一方でどう展開していくかが大きなポイントになると思う。その国や地域固有の食文化が、発達してきた背景や歴史、生活習慣などを生徒たちにどう考えさせていくのが重要だが、今回はそこまでせずに終わっている。生徒の感想の中には、そこにつなげていくようなものもあったので、今後の課題としたい。



調理実習で作ったナシゴレンなど



調理実習で作ったナシゴレンを食べている生徒

### 【生徒の感想】

- ・ 初めて外国の料理を作って、日本にはない調味料を使うんだなと思いました。でも思っていたよりおいしくてびっくりしました。ナシゴレンは、日本の炒飯よりも濃い味で、おいしかったです。サテアヤムは、日本でいう焼き鳥で、オープンで焼くと聞いてびっくりでした。カレーとココナッツの味がすごくあったけど、パリパリしていて、おいしかったです。日本とはまた違った味で少し味が濃かったけど、おいしくて良かったです。こんな料理ならマレーシアに行っても、食べられるんじゃないかと思いました。向こうに行って、食べ比べてみたいです。
- ・ 今日、私はナシゴレンの担当をしました。うまく作れるか不安だったけど、意外と簡単にできてびっくりしました。他の料理もココナッツミルクを入れたり、ピーナツバターを入れたりなじみの無いものを入れていたので、どんな味になるんやろ…？とそんなことばかり考えていました。でも実際出来上がったのを食べてみると、どれもおいしくて、なんか嬉しくなってマレーシアに行くのが楽しみになりました。今回の実習を通して、これからも他の国の料理に挑戦したいと思いました。

### 3. 成果と課題

福祉の授業に、国際理解の視点を取り入れる試みを行ったが、どの授業も生徒に好評で成果が得られたと思う。被災地で身体障害者となられた方への支援活動や、ストリートチルドレン支援についての学習を今回のポイントにおき、授業を構成した。授業での生徒たちの反応は素直で純粋なものであった。感想を読むと、生徒たちが物質的に恵まれ、ものがあふれている生活を見つめなおし、批評家や評論家にならずに、“自分にできることは何か”を考えるきっかけになったのではないかと思う。

ただ、福祉の授業なので、国際協力の授業としては不十分な点があった。また、私の偏ったイメージを植えつけていないかという気持ちはどの授業をしても気がかりなことであった。果たしてインドネシアのことを表面的なものでなくしっかり伝えられたかは自信がない。訪問先での歓迎に心も和まされ、ゲシアン村での交流やホームビジットで感じた子どもの純粋さや心の温かさは、写真だけでは伝えることが難しいものだった。

生徒には「外国＝先進諸国」というイメージや、異文化、とりわけ発展途上国に対し、「貧しい」「遅れている」「汚い」などのマイナスイメージが先行しがちなことも否めない。マレーシアへの修学旅行では、素晴らしい経験をし、大いに楽しんだ生徒たちだったが、感想の中には、「やはり日本が一番だ」というものが多く見られ、結局は日本に生まれてよかった、という意識を超えることが難しい。人々の暮らしや文化についての理解が充分でないと、そういう反応も起こりうるので、効果的な事前学習の重要性を感じた。

インドネシアの被災地についての授業は、校内研究授業として授業を見に来てもらうよう呼びかけたが忙しい中での参加は少なく、もっと多くの教員に知ってもらうための努力が必要だった。

私自身が、今までに国際理解教育や開発教育に携わったことはなかったが、マレーシアへの修学旅行をきっかけに、暗中模索の状態でスタート

をきったが、良い経験になったと思う。これからも機会があれば、授業に今回のような視点を取り入れていきたい。